



復刊第112号  
題字 吉岡 弥生

巻頭言



会長 山崎 倫子

空梅雨に始まった夏も猛暑に冷夏、長雨に集中豪雨と日本列島は異常天候に振りまわされて大変な夏でした。全国の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

八月の声を聞くとあれこれ感慨も一しおですが、終戦からもう四十二年の歳月が過ぎていったことなど思っておこす人もわずかになってしまいました。人口一億二千万人のうちいまや戦後生まれが七千三百五十万人を越え六割強に達しています。四十二年も立てば世代は代り、放っておけば何もかも風化するのが当然です。しかし戦後努力と勤勉によってようやく築き上げた今日の平和と繁栄をどう守ってゆくかはしっかり考えな

ければなりません。地球的にみても人びとの願いとはうらはらに、平和への道程は未だ遠く、国内の経済社会状況や国際関係もまた前途不安が感じられます。

私たちは医師として人間として何ができるかを改めて考えていかなければならないと思います。日々の診療を通して、また高齢者や心身障害者を対象とした仕事の中で心ある医療を続けていくことは当然なことですが、女医の集まりとして何かできることはないでしょうか！ 定款第二章第四項に、公衆衛生の向上およびこれに対する助成とうたっているような活動、たとえば相談事業、あるいは性教育、アルコール、覚醒剤

乱用、食生活の見直しなど、学校教育や社会教育への積極的なアプローチはできないだろうかと思ったりしています。すでにいくつかの支部あるいは個人で取り組んでいらつしやる場所もあるやに聞いておりますが、ぜひ情報をお聞かせいただきたいと思います。

国際的にはMWIAを通してささやかな事業が行なわれています。長年にわたって本部から給付をして協力してまいりました。国際会議出席に当たって参加者はお土産を持参しますが、各国からのものを併せ会期中にバザーが行なわれその売上げを奨学金に当てるとか、また昨年まではナイジェリアの母子保健事業の援助に使われたりしました。日中医学協会に毎年十萬円の会費を払っていますが、これも中国医師の研修にささやかな貢献となっています。

今や世界は一つ、日本だけが平和で豊かな生活を享受していくことはできない時代になっています。日本女医史によると本会は国内的、国際的災害に対し率先して救援事業を行なっています。海外での医療ボランティア活動に、またしかるべきチャネルを通して医療に恵まれない人びとに資金面でもお手伝いできないだろうかと思ったりします。

先般来、芸能人や一連の政治家のさまざまな行事を新聞やテレビで見聞するにつけ、今現在飢餓に直面している人びとや予防接種すら受けられない何千万人もの子供たちの姿が

目次

巻頭言.....	山崎 倫子 (1)
第一回ワークショップ	
司会者のことば.....	三神 美和 (3)
老人性痴呆の臨床.....	竹宮 敏子 (3)
高齢者における循環器疾患.....	
—— 最近の観血的治療について ——	楠元 雅子 (4)
加齢の画像診断.....	平敷 淳子 (5)
加齢による感染と免疫について.....	石橋 悌子 (6)
高齢者の食生活.....	香川 綾 (7)
支部だより.....	大場須賀子 (8)
女医なればこそ.....	
学術研究助成者の研究経過報告.....	
家族性異常アルブミンの基礎と臨床に関する研究.....	藪 由紀子 (9)
組織化学分野への定量分析法とその法医学的応用.....	武市 早苗 (10)
神経組織における Cl-ATPase の免疫組織学的証明.....	稲垣千代子 (10)
T細胞の分化・増殖機構における胸腺の役割に関する研究.....	武内ゆみ子 (11)
短歌/ソレント国際女医会誌.....	上山 ハマ (12)
昭和六十一年度日本女医会会員学位取得者一覧表.....	
第10回学術講演研修会のお知らせ.....	
第3回国際女医会西太平洋地域カンファレンスのご案内.....	
学術研究助成のご案内.....	
吉岡弥生賞推せんについて.....	
荻野吟子賞推せんについて.....	
第21回国際女医会議予告.....	
理事会議事録.....	
常任理事会議事録.....	
会員動静.....	
編集後記.....	

### 第10回学術講演研修会のお知らせ

日時 昭和62年11月22日(日) 午後3時より  
 場所 京王プラザホテル 南館3階グレースルーム  
 東京都新宿区西新宿二丁目一  
 電話 〇三三四四一〇一一  
 講演者 南谷 幹夫先生(都立駒込病院感染症科部長)  
 演題 ワクチンの理論と上手な使い方  
 懇親会 会費 五〇〇〇円  
 場所 四階「雅」  
 時間 午後四時四十分より

学術部

目に浮かんでやり切れませんでした。せめてその百分の一、否千分の一でも思ったのは私のひがみでしようか!! 反面過日の新聞紙上で、三年前の日航機事故で亡くなられたお嬢さまへのお香典を医師希望のフイリピン女性に医学教育を受けられるよう、そっくり寄付なさったという爽やかなエピソードを読み、とても感激しました。

私たちが今後より多くの時間を生涯教育に注いでいかなければならないのが現実でもありません。先般千葉教子著の「よく死ぬことはよく生きることだ」を読んで非常に多くのことを考えさせられました。再発をくり返す乳ガンと闘いながら一日一日を全力で生きてこられた千葉さんの自立性、行動力、精神力、気魄、死への準備、すさまじいというか「参りました」の一言ですが、アメリカにおける「がんの告知」医

師の態度と責任、患者の知る権利、メディカルコンロジスト(癌化学療法専門医)の存在、薬品に関する徹底した情報の開放など、教えられるところにも反省することも大でした。一読をお奨め致します。

さて、今年も平均寿命が男女とも〇・四五年延び、それぞれ七五・二三と八〇・九三歳になりました。不老長寿の社会に一歩足をふみ入れた今、果たして長寿を手放して喜べるのでしょうか。高齢者問題は医師にとっても考えさせられる深刻な問題であります。

(中学生)の妊娠は文化の貧困と喪失によるもので、妊娠した学生は貧しい家庭、多人数の同居、失業家庭に多く見られる。ある街の六年間にわたる調査では、百二十二人の妊娠学生の家庭は四〇%がすでに社会保障を受けており、その娘たちの二〇%もまたソーシャルサービスを受けている。多くの妊娠学生は単親家庭の娘であり、その三分の二は母親自身が十代妊娠の経験者である。母と娘が同時に子供を産み育てている例さえある。教育の中断、家庭内環境の悪化等、悪循環が繰り返されている。

西ドイツの発表に居住に関するものがあつた。青年期の身体的、精神的発達突然成熟するものではなく子供の時からの発達過程に負うものである。したがって都市設計においても子供たちが充分エネルギーを発散できる広場の必要性、住居設計においても近年の高層化とともに目的機能別個室に重点がおかれ、家族全員のコミュニケーションが失われ、孤立感が強まり創造力が弱まる等の社会的影響が現われている。政策面での反省と転換の必要性が述べられた。

今年度初めての事業として、去る七月十八日、第一回ワークショップを東京女子医大臨床講堂で開催致しました。「老化と疾患」は昨年行なったアンケート調査でもっとも希望が多く、かつ時宜を得たテーマであつた関係上、百五十余名の参加があり盛會裡に終了することができました。

カナダから近年顕著になりつつある、人、もの、宗教、思想に対する狂信的傾向について報告があつた。思想改革、洗脳など、全体主義環境下によくみられる、自己改革、可能性を引き出す、セルフスマンシップの開発とかいう口実で若者の可能性を破壊し破壊に導いている。

最後の総会の席上Dr.ティーマが壇上に立って、今回の会議に参加したハンガリー人女医夫妻が、車から全財産を盗まれて大変困っているののでぜひ皆さんの援助をお願いしたいとのアナウンスがあつた。私たち日本人グループは早速各人に自由意志による拠金をお願いしたところ、全員心よくご協力下さつた。Dr.ティーマは晩餐会の席上大きな鍋を持ち歩き寄付を集めて廻っておられた。日本人全員からですと、リラ、ドル、円合わせて約六万円を手渡したところ、日本のドクターは天使たちだ、早く彼女を安心させてあげようと足早やに去って行った。こんなエピソードがあつたことも併せてお伝え致します。

講師の先生方はいずれも本会会員でそれぞれの分野で立派な業績をあげ活躍の方がたでした。こうした会をまた開いてほしいとの声が出ており、今後も考えていきたいと思つております。

最後にM.W.I.A.ソレント会議について若干追加報告を致します。青年期、特に心理、社会面での報告によると、程度の差こそあれいまや世界中が共通の問題に遭遇し悩んでいることの再発見でありました。

ちよとど一九八七年ガイアナでおこつた多くの子供を含む九百人の男女が自殺? 他殺? 不明だが一度に死亡したというショッキングな事件が世界を驚かせたことがあるように、近頃の若者たちは考えることをしないので容易に洗脳されてしまう傾向がある。黙想を通して、または暗示により、スローガン、新興宗教や信仰などに引きずりこまれる。教育によってこのような風潮を予防することが大切である」と。たまたまこの原稿を書いている折、韓国

における新興宗教の教祖に殉じた三十二人の集団自殺が報道されていた。また、青年期、とくに十代における非行、登校拒否、過食、拒食、性病、自殺、中絶前後の自殺志向等、多くの問題が発表された。

## 第一回ワークショップ

### 司会者のことば

日本女医学会学術部は、毎年秋に有名な方々にご講演をお願いしておりますが、このたび、会員の中から演者を迎え、初めての試みとしてワークショップを行なうことにいたしました。まず会員の方々からどんな問題に関心があるかをアンケート様式で集計しましたところ、老人問題に関心をもつ方が多かつたので「老化と疾患」をテーマとしてワークショップを開催することにしました。

栄養のお話をいただくことになっております。老化現象は自然界の必然的現象でありますので、今回とり上げた問題のほか、消化器、呼吸器、泌尿生殖器、骨、筋肉などさまざまな分野にも老化に伴う変化、疾病がありまますが、時間の関係上、これらを割愛させていただきます。

名誉会長 三神 美和

## 老化と疾患

教育が叫ばれております今日、私どもも日進月歩の医学におくれないように勉強しなければなりません。かかのお気持ちの現われと存じますが、

雨にもめげず、予想外の多数の会員のご出席をいただきまして、企画した私どもとしては、まことに喜ばしく感謝しております。

昭和62年7月18日  
 東京女子医科大学  
 教授 東京女子医大・神経内科 竹宮 敏子

## 老人性痴呆の臨床

東京女子医大・神経内科 教授 竹宮 敏子



加齢変化を医学生物学的に研究する老年医学と、医学生物学、社会学、精神医学の多方面からアプローチするより臨床的、実際の老人病学とがあるが、演者は後者の立場より「老人性痴呆」とテーマを決めた。病的な痴呆は、暦年齢相応のほけと

痴呆の原因は、①疾患の主座が脳にあるもの(老年痴呆、アルツハイマー病、脳血管性痴呆、ピック病、ハンチントン病、パーキンソン病、クロイツフェルトヤコブ病などの進行性脳疾患、脳外傷、脳炎、髄膜炎、中毒、てんかんなどの脳疾患後の欠陥状態)②全身疾患、③薬物性の三つに大別される。

表1 東京女子医大神経内科

痴呆症の入院統計(1984年5月~1987年4月)  
 全患者数 859 男 540 女 319  
 痴呆患者数 84 54 30  
 年齢67.2±14.3 64.2±14.3 (歳)

	男	女
アルツハイマー病	0	1
老年痴呆	2	3
多発梗塞性痴呆	25	9
ピック病	1	0
正常圧水頭症	4	2
クロイツフェルトヤコブ病	(2)	0
パーキンソン病	4	5
ハンチントン病	2	0
アルコール性脳症	2	0
脊髄小脳変性症	8	3
シャイドレーガー症候群	2	0
その他	4	7

表2 抗痴呆薬(1部)

1. 脳賦活剤  
 Calcium hopatenate(Hopate)  
 Idebenone (Avan)  
 Meclofenoxate (Lucidril)
2. 脳循環改善剤  
 Cinepazide maleat (Brendil)  
 Ifenprodil tartrate (Cercoral)  
 Pentoxifylline (Trental)  
 Vinpocetine (Calan)
3. 神経伝達物質および関連物質  
 choline, choline chloride, Lecithine, Deanol, Physostigmin
4. ホルモンおよびペプチド  
 Cholecystokinin-octapeptide(CCK-8)  
 Thyrotropin releasing hormone(TRH)  
 Vasopressin
5. その他  
 塩酸amantadine(Symmetrel), リン脂質  
 Tiapride (Gramaril)



加齢の画像診断

画像診断医は、よく、年齢相応 normal for age という表現をもちいる。病気を正しく診断することと同様、病気でない人を正しく、病気でない」と言うことはきわめて重要

八例あり、最高年齢は七十七歳である(図1)。弁膜症の症例はすべて人工弁置換術を受けており、手術死亡はない。最高年齢は僧帽弁閉鎖不全症の七十六歳女性で、術前の心胸比六二%が術後五四%と著明に改善している。先天性心疾患の一例は心房中隔欠損症の六十七歳女性で、二年後の現在心不全もなく経過良好である。大動脈瘤に対してもその内科的予後の不良なことから手術を考慮するが、手術成績は必ずしも良くない。徐脈性不整脈に対しては一時的あるいは永久的ペースメーカー療法が失神発作、

心不全の改善、運動範囲の拡大などに極めて有用である。過去二十二年間に当心研では六十五歳以上の症例二百九十六例に永久的ペースメーカー植え込みを行なっており、九十歳以上の症例も六例含まれている。最近頻脈性不整脈に対しても永久的ペースメーカーが植え込まれるようになった。高齢者に対しても観血的治療が有用な場合も多く、年齢のみできりめることなくなるべく早期に精査をすすめる、治療の方法や適応を決めるべきである。

群馬大学中央放射線科 助教 平敷 淳子

一、高齢者の胸部X線写真にみられる病変と間違いやすい、年齢相応の像

- (1) 胸部大動脈の拡張、屈曲、蛇行。
(2) 腕頭動脈の拡張蛇行。
(3) 第一肋骨軟骨の骨化。
(4) 心膜の脂肪(図1、図2)。
(5) 皮膚のしわ、たるみ(図3)。
(6) 胸椎の骨変化。
これらの多くは肺腫瘍影とまちが

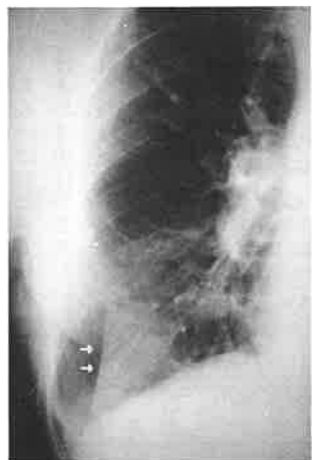


図3 皮膚のたるみ(二) 右下葉や右胸膜の変化とみあやまりやすい。



図2 胸部CT、心膜の脂肪 心膜脂肪は、肺(L)、肝(H)、心膜(↓)の前方に低濃度域(\*)としてみられる。

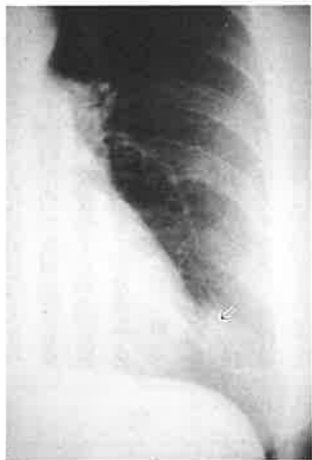


図1 心膜の脂肪(一) 心左縁で左横隔膜と接する部位がぼんやりとぼけ、肺内病変が存在しているようにみえる。

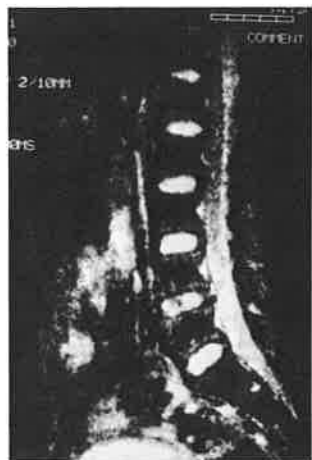


図6 MR I 腰椎矢状断(SE2000/100) 水々しい椎間板や脳脊髄液は高信号域(白く)に描出されている。



図5 骨のディスプレイによるCT腰椎 圧迫骨折 骨のディテール及び圧迫骨折の像が明瞭



図4 変形性関節症及び椎間板の変性 狭小化した椎間板(↓)には変性による空気の像も認める。

脳血管性痴呆は脳の小動脈の硬化性病変による小梗塞の多発が原因と考えられ多発性痴呆と呼ばれるが、この場合はある面での機能が相対的に残存していることもあり、その不均等から「まだら痴呆」とも言う。初老期に発症するアルツハイマー病と老年期に発症する老年痴呆は、後者で発症が遅く、症状が軽く、経過は長いという臨床的な差異はあるが、病理学的には老人斑や神経原線維変化の存在は共通しており、両者は同一疾患として理解されるようになった。この点から後者をアルツハイマー型老年痴呆と呼ぶ。

表1に一九八四年五月より一九八七年四月まで三年間の東京女子医大神経内科における入院症例の集計を示した。全入院患者八百五十九例中痴呆患者は八十四例で約一〇%である。もともとも多いのは多発性痴呆であり、全痴呆例の四〇%を占める。パーキンソン病一〇・七%、老年痴呆は五・九%であった。

抗痴呆療法としては、薬物療法、環境整備、日常生活上の適度な知的刺激等が試みられている。薬物療法に望まれる効果は、脳循環の改善、脳代謝賦活作用、神経伝達改善作用向知能効果および低毒性である。最近開発された治験薬を含み一部を表2としてまとめてみた。効果は、自覚症状や精神症状など痴呆の周辺症状の改善は現在でもある程度期待しうるが、中核症状である記憶力低下、失見識に対する効果は今後の課題

高齢者における循環器疾患

最近の観血的治療について

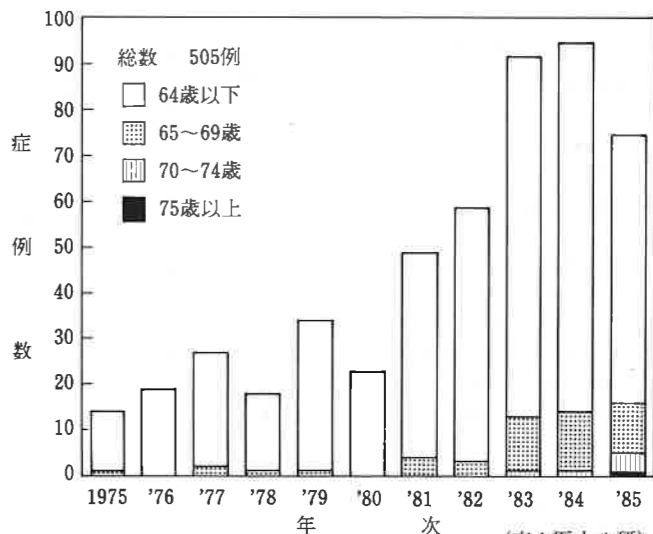


最近の循環器疾患に対する観血的治療の進歩は著しく、新しい心・血管系薬剤の開発とともに、高齢者でも多くの症例で延命と活動能力の改善が期待できるようになった。とくに虚血性心疾患や不整脈に対して、発症早期に比較的簡便に内科医が施行できる観血的治療が確立されたことも疾患の予後を良くしている。当心研で過去五年間に心・血管系手術あるいは観血的治療を受けた六十五歳以上の症例を表1に示した。

Table 1: High age cardiac surgery cases (65 years and older). Columns: Age (65-69, 70+), Total. Rows: Coronary artery disease (PTCA, CABG), Aortic disease, Congenital disease, Aortic aneurysm (dehiscence, non-dehiscence), Total.

(東女医大心研1982~1986年) PTCA:経皮的冠動脈拡張療法 CABG:冠動脈バイパス術 以上の症例を表1に示した。虚血性心疾患がもつとも多く、七四%であった。わが国においても虚血性心疾患による死亡率は年々増加しており、とくに七十歳以上の比率が高くなっている。当心研CCUに過去五年間に収容された急性心筋梗塞症例の年齢分布をみると四百四十例中七十歳以上は百三十三例(三〇%)であり、

図1 CABG—年次別手術数と年齢



(東女医大心研)

最高年齢は八十六歳の女性である。七十歳以上の死亡率は三〇%と、七十歳未満の一一%に比し高率である。虚血性心疾患に対しては七十歳以上でも積極的に観血的治療を行なうようになった。最近虚血性心疾患に対して次のような観血的治療が行なわれている。PTCR(経皮的経管式冠動脈再開通術)——心筋梗塞のごく早期に冠動脈内あるいは末梢から血管溶解薬(ウロキナーゼ九十一万単位まで)を投与し、血栓を溶解・血流を再開させようとするものである。PTCA(経皮的経カテーテル的冠動脈拡張術)——冠動脈狭窄病変に対し、バルーン・ダイラテーションカテーテルにて直達的に拡張し、血行再建をはかる治療法である。一年以内の再狭窄率は約三〇%といわれている。この方法は次のCABGに比較して、簡便さ、侵襲の少なさ、安静期間の短縮、費用が低額であることなどから、高齢者にもすすめられている。CABG(冠動脈再建術)——狭窄のある冠動脈に血管をバイパスし、血行の再建をはかる方法である。血管としては伏在静脈と内胸動脈が用いられる。その適応範囲は年齢や病変の重症度などに対して年々拡大され、当科でも七十歳以上の症例は十

確な診断と適切な処置が肝要である。

- 協同演者/竹内恵・橋本しをり・曾根玲子
● 協力/丸山勝一・大澤美貴雄

東京女子医科大学 日本心臓血管研究所内科 助教 楠元 雅子



はことに閉経期以後はカルシウムの脱出が多くなります。カルシウムの補給には牛乳がもっとも吸収もよく、利用しやすいのです。一日のカルシウム量は六〇〇mg必要です。牛乳は一〇〇gに一〇〇mgのカルシウムを含みますから、一日にその半分三〇〇gはとりたいたいものです。牛乳は飲みきれない人はヨーグルトやチーズでもよろしいのです。骨折の危険のことを考えると、ぜひ牛乳は毎日飲むようにしたらいのです。

以上申し上げた食事のとり方を、食品について食べ方を私は長い間、実験的に栄養クリニックで効果をたしかめてあります。全体の食品を四群にわけて、一群の牛乳と卵、二群の魚肉大豆およびその製品、三群の緑野菜、淡色野菜、芋、果物、海藻を毎日とりまします。そしてその人の体重に相当し、活動に必要なカロリーをとりまします。私は毎日その摂取量を記録していますが、一日に消費する熱量は平均十五点で、一点八〇カロリーです。二〇〇カロリーですが、

栄養素はバランスよく全部摂るようにはします。栄養クリニックでこの摂食法は短期間に身につけることができます。各人自分で食事を選択することが、精神的にも、生命に対する意欲をもつことができて、しっかりとした自覚をもちます。

高齢者にはなおおいしく、ゆつくりと誤りのないように食べるようにすることが必要です。

\* \* \*

五人の演者のお話を伺いまして、改めて老化に対し、新しい医学に對し啓発される所が大きく、生涯教育の実をあげたものと存じます。日本女医学会には、今回の演者の他、それぞれの分野に、多くの優秀な方々がおられますので、學術部は第一回にひきつづき、第二回、第三回とこのようなワークショップを開催したいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

(三神 美和)

### 第3回国際女医会

#### 西太平洋地域カンファレンスのご案内

日時 昭和63年11月25日〜26日  
場所 マニラ(フィリピン)  
テーマ 発展と平和のための予防医学

## 支部だより

### 女医なればこそ

都下支部 大場須賀子

去る七月四日日本女医会、東京都支部連合会都下東・西支部合同の会が三鷹のホテルであり、十四名集まりました。日頃ご無沙汰してお目にかかれない先生方にお会いして打ち明けてお話しすることは楽しみであり、よい事と思えました。

さて自己紹介があり、狛江市の野沢良美先生は昨年十月二十五日に入浴後、両耳のピンとした感じと、がんとした後頭痛、軽い吐きがあり、三日間自宅で点滴をして安静にしておられたそうですが、三神先生に連絡してすぐ仙川の至誠会病院に入院、CTをとり、くも膜下出血と診断が確定し、一週間後に手術をなさり、経過良好でしたが、輸血の關係でGOT、GPTが高値となり肝障害が出、十二月二十九日に退院なされ、六十二年一月には忙しいまま動きすぎて全身に黄疸が出て、一月十五日から二十日まで絶対安静で再入院し、その後六月にはGOT、GPTは正常値になられ、現在日本

女医会常任理事として活躍されておられます。

次に稲城市の松本弘江先生はかつて市医師会会長で活躍なされた方で、十年前より糖尿病を発病、忙しいままにお仕事をやりすぎたり、好きなうなぎを食べすぎたりで三年前に、自宅で急に気分が悪くなられ、左手がしびれて胸痛もあり、すぐ九段坂病院に勤務の循環器専門の息子さんに診察してもらい、ウロキナーゼの静注をしながら九段坂病院に入院し、心筋梗塞、脳梗塞をおこしましたが経過が良く、後遺症もなく、よく食事療法を守っておられると、何時もながらの歯切れのよいハキハキした口調でお話していらつしやいました。そのお隣にいらつしやった副会長の小俣先生は、私たちのご馳走の日本料理について、これは何単位と、さすが臨床医のベテランで松本先生にお話しておられ、和氣調子の雰囲気でありました。

また国分寺市の若い小島美由紀先生は、

生は、東大卒の新鋭の小児科医で三歳と四カ月の乳幼児をかかえ、育児に、医療にがんばっていらつしやるとか、皆それぞれにご自分の病気になる、環境の苦難を克服していらつしやいました。

最後に山崎会長が今までかぶったこともない素敵な帽子をかぶっていらつしやったので、皆がどうしたのかしらと注目の的でしたが、三月頃より頭痛、頭痛が激しく、ご自身で脳腫瘍? の疑問に不安な日々を過ごされたとのこと。公私ともに忙しいのストレスでしょうと周囲の方にも言われ、ご自分でもそう思われる反面、どうしても納得できなくてCT検査をした結果、やはり腫瘍が発見され、東京女子医大病院脳神経センターで手術することに決定したそうです。

その後四月二十三日からイタリヤのソレントで開催された国際女医会に会長は七十二名の会員とともに出席し、大任を果たされ、五月三日無事帰国。ついで五月二十四日には大阪で日本女医会総会が開かれ、一生懸命設営にあたって下さった大阪の会員の方々に感謝しながらその責任を果たされました。

六月一日には予定通り入院、手術を受けられました。それまで三月からの長い間口外することもしないで、頭痛、頭痛に耐えておられたそうです。こういう悪条件の中でこの立派な責任あるお仕事を国外、国内においてやり遂げたことは、私には到底

まねができません。いやその能力もない私はただただ深い感銘を覚え、医師としての判断に基づいた上といながら、その強い精神力と、行動力に、私たち全員は、あつと絶句して驚くばかりでした。あらためて山崎会長の医師として社会人としての偉大さを知り、畏敬の念を禁じえませんでした。なお入院中は旅行中として一切秘密にし、三人の副会長

の先生方のみ打ち明けられたそう、で、万が一の時のために遺言状を用意されて手術にのぞまれたそうです。涙もろい私は山崎会長のお話を聞き涙が出てしまいました。出血が一〇〇mlもあつたそうですが、腫瘍は良性で、経過も順調で六月二十七日無事退院なされたそうです。

この三人の先生方の病氣に對する訓練はいつ私たちの身にふりかかっ

てくるかわかりません。医師なればこそ適確な判断と強い精神力、そして社会に對する責任感を持って敢然と病氣に立ち向かって、完全に社会復帰をなされた先生方のお話に、深く感動致しました。

稿を終るにあたり、三人の先生方の活躍とご健康をお祈り致します。

### ● 学術研究助成者の研究経過報告

#### 家族性異常アルブミンの基礎と臨床に関する研究

大阪大学医学部  
助手 藪 由紀子

##### 研究業績の概要

Dysalbuminemic Euthyroid Hypothyroidism type III は、 $3,3,5$ -triiodothyronine ( $T_3$ ) に結合増大を示す新しいリアントアルブミン (ALBvar) である。本年度の研究は主としてALBvar について検討を行なった。臨床上、代謝的に正常であるにもかかわらず、血中 $T_3$ 濃度の著明な上昇、アナログ法

のキットで測定した血中遊離 $T_3$ 濃度の著明な(偽)高値で特徴づけられた。ALBvar は $T_3$ に對する親和恒数が $5.1 \times 10^6 M^{-1}$ と正常アルブミンの約八倍に増大し、また thyroxine ( $T_4$ ) に對しても二・五倍増大した。精製したALBvar は SDS polyacrylamide 電気泳動 (PAGE) で 66K の位置に一本のバンドとして泳動され SDS-free PAGE では monomer と dimer に分かれ、正常 (N)

ALB との間に差を認めなかった。電気泳動上 AB 分画には正常の二・三倍の  $^{125}I$ - $T_3$  が結合するが、この増大した結合は 80mM barbital, 10mM ANS で抑制された。また、Cl<sup>-</sup>によつても抑制をうけた。これらの性状は type I (FDH) の ALBvar が  $T_4$  に對して示す性状と非常によく一致し、症候群としての類似性が証明された。精製した ALB  $^{125}I$ - $T_3$  で標識し等電点電気泳動で分画すると、N-ALB, ALBvar とも八つの  $T_3$  結合バンドを認め、その pl (等電点) は両者でそれぞれ一致した。しかし、強い  $T_3$  結合バンドは N-ALB で pl の高い方 (五・六三、五・四〇) に、ALBvar では pl の低い方 (五・二四、五・〇九) に認められた。内因性の iodothyronine を除去すると、特に ALBvar で pl の低い二本のバンドが増強され、また、外因性非標識  $T_3$  を添加すると、これらのバンドが先に飽和されることにより、これら pl の

### 学術研究助成のご案内

会員の学術研究に對し助成事業を行なっております。希望者がありましたら、応募要項にしたがって、事務局まで申請下さるようお願い申し上げます。

#### 一、助成の趣旨

医学分野の発展、向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

#### 二、助成金額

総額一五〇万円 (五十六件)

#### 三、申込手続

- (1) 応募資格  
入会継続三年以上経過した日本女医会会員で個人、またはグループ (ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割にならなければならないこと)
- (2) 助成期間  
一年を原則とする。継続を必要とする場合は改めて申請を要する。
- (3) 応募方法  
本会所定の用紙に、黒インキで記入。  
一通を提出 (用紙は事務局へ請求のこと)
- (4) 申込期間  
昭和六十二年十二月二十五日必着
- (5) 選考および発表方法  
選考委員会において選考の上、昭和六十三年三月開催の日本女医会理事會において決定し申請者宛通知する。
- (6) 助成金の贈呈  
昭和六十三年五月開催の日本女医会総会の席上。
- (7) 受賞者の本会に對する義務  
昭和六十四年三月末日までに研究経過報告 (B5原稿用紙三枚) と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。
- (8) 送り先  
日本女医会本部  
〒150 東京都渋谷区渋谷三二一八七  
電話 〇三一九八八―〇五七二

低いバンドはT<sub>3</sub>に対して親和性の強い成分と考えられた。NABのこれら二本の結合バンドは少量の外因性T<sub>3</sub>により先に飽和されることにより、type Iの場合と同様、type IIIのALB

### 組織化学分野への定量分析法とその法医学的応用

徳島大学  
武市 早苗

Tetrazolium 塩(nitroblue tetrazolium; NBT, tetranitro tetrazolium; TNBTなど)は脱水素酵素により還元されると有色性の formazan となり局所に沈着する。われわれはこれら同一切片上(naphthol yellow SNYS)にて蛋白染色を施し、両者の有色性発色物質を同時に二波長顕微分光光度計(測定野φ20mm)にて、各測定部位の組織蛋白量に対する酵素活性を比活性(RA)として数量化した。

Alcohol dehydrogenase (ADH) 染色にはNBTを用いた。この場合生じたformazanは570nmで極大吸収(A570f)を示し、NYS染色による蛋白は430nmで極大吸収をもつが二重染色標本ではこの部位にはformazanの重複があるためその一番少ない450nmの値を用いて蛋白量を求めた。

var. のT<sub>3</sub>結合増大もまた、正常にも存在するT<sub>3</sub>に対して親和性の強いAIB成分が量的に増大している結果と推測された。

た。すなわち450nmのtotal 吸光度(A450t)からA450fを差し引いて蛋白のみの吸光度とした。実際にはA450fは蛋白とS重複(S<sub>2</sub>570nm)のformazan吸光度(A700f)と同値であるため、RA=A570f/(A450t-A700f)と求められた。

Succinic dehydrogenase (SDH) 染色にはTNBTを用いた。formazanの吸収スペクトル像は上記とはほぼ同じだが、A450f=A570f×α、α=A450f/A570f=0.84、したがってRA=A570f/(A450f-A570f×α)となる。

実験動物としては体重250g前後のWistar系雄ラット肝を用いて、肝小葉の中心静脈からGlisson鞘までの距離を横軸として、relative distance(RD,0-100%)であらわし、RAを縦軸として図式化して、いわゆるenzymographic mapの作成を試みた。

無処置群：SDHのRAはRD=0%で最高値0.48-0.57を、中間帯内側のRD=25%付近で最低の0.38-0.42、周辺帯では0.45-0.50を示し左上がりのすり鉢状となった。ADHは中間帯にピークをもつ曲線で丁度SDHと逆相関を示した。

しかも本法はその局在を明示しつつ、数量化、図式化し得るという点で、今後法医学分野のみならず広くその活用が期待されるものと考えられる。

### 神経組織におけるCI-ATPaseの免疫組織学的証明

京都薬科大学・生物学教室  
教授 稲垣千代子

中枢神経細胞の抑制性制御は、GABAやグリシンなど、神経細胞膜のCI-ポンプとして機能する可能性のあるCI-ATPase活性を見出した。今回、免疫組織化学的手法により、本酵素の脳内局在を検索したので報告する。

個をBALB/cマウス由来HAT感受性ミエロマ細胞IX63個と五〇%ポリエチレングリコール溶液中で融合させた。二度の限界稀釈クローニングにより、モノクローナルハイブリドームを得た。抗体活性はCI-ATPase活性阻害効果により検定した。抗体産生モノクローナルハイブリドームをBALB/cマウスの腹腔に植え、抗体含有腹水を得た。免疫組織化学染色は、ラット脳の固定切片を用いFITC抗マウスIgを用いる間接法またはDAP法によって行なった。また、脳切片のATPase活性染色は、改変Wachstein-Meissel法によって行なった。

CI-ATPase活性を特異的に阻害するモノクローナル抗体を、以下の方法で作製した。Wistar系ラット脳から調整した精製ミクログロブリンによりBALB/cマウスを免疫し、その脾細胞6×10<sup>7</sup>

得られたモノクローナル抗体は、IgG<sub>2b</sub>入であると同定された。本抗体は、CI-ATPase活性を用量依存的に抑制するが、Na<sup>+</sup>K-ATPaseおよびアニオン非感受性mg-ATPase

ase 活性には抑制効果を示さなかった。この抗体を用いた免疫染色の結果、小脳プルキンエ細胞、および大脳皮質、尾状核の細胞群の細胞膜が染色された。これらの染色部位は、

脳切片のATPase活性染色によるCI-ATPase活性の局在と一致し、また脳切片の抗体処理によりCI-ATPase活性染色の減弱が認められた。これらの結果は、脳CI-ATPase

### 吉岡弥生賞推せんについて

- 昭和六十三年吉岡弥生賞授賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せん下さるよう、お願いいたします。
- 締め切り期日は本年末日までに願います。
- なお次の書類を添えて、ご推せんをお願いいたします。
- 一、自筆履歴書
- 二、業績
- イ 医学に貢献した現会員。
- ロ 社会に貢献した現会員。
- 三、推せん理由

### 荻野吟子賞推せんについて

昭和六十三年荻野吟子賞授賞の適格者を本会理事または支部長宛にご推せん下さるよう、お願いいたします。

締め切り期日は、本年十二月二十五日、候補者の経歴、業績と推せん理由を記載し、推せん者の氏名、捺印をもって提出下さる。

### T細胞の分化・増殖機構における胸腺の役割に関する研究

東京大学医学部第二内科  
武内ゆみ子

研究目的：T細胞は、外来抗原が自己のMHC分子とともに提示されたときだけこれを認識し反応することができる。このようなT細胞の自己認識能は、胸腺における成熟過程で獲得される。この胸腺内自己教育の本態は、胸腺上皮のMHC抗原と胸腺細胞上の受容体の相互作用であることが想定される。in vitro、in vivoの新しい実験系を確立し、T細胞の分化・成熟に果たす胸腺間質の役割を検討する。

研究結果：マウス胎仔胸腺を、少量の培養液上に浮遊させたフィルター上に置くことで、栄養補給、O<sub>2</sub>供給、線維芽細胞の増殖の遮断等の問題を解決した新しい組織培養系を確立した。この系において胎生十五日十六日胸腺細胞は、表現型的、機能

的に、in vivoと比較し得る分化を遂げることが確認できた。すなわち胸腺細胞をCD4、CD8抗原の染色性から分けると、①CD4<sup>+</sup>8<sup>-</sup>(骨髄由来T幹細胞)、②CD4<sup>+</sup>8<sup>+</sup>(胸腺内に特有な未熟T細胞)、③CD4<sup>+</sup>8<sup>+</sup>(class I拘束性T細胞)、④CD4<sup>+</sup>8<sup>-</sup>(class II拘束性T細胞)の四型になるが、培養開始時には①成分が主体をなすところから、一週〜十日間の培養で、③、④の成熟T細胞成分が出現してくる。

この系に、①胸腺上皮のIa分子(class II MHC抗原)発現をプロックするために、抗Ia抗体を、また、②T細胞抗原受容体(TCR)を介するシグナルを阻害するために、シクロスポリン(CsA)を加えた。その結果、両者でCD4<sup>+</sup>8<sup>-</sup>細胞の出現が

特異的に抑制された。①抗Ia抗体による結果は、これまでKrisnibeekやDelucaが、おのおのin vivo、in vitroで報告した結果を、組織培養系で追試した形になった。②CsAによる結果は新事実であり、胸腺内自己教育に、TCRが関与している可能性を示唆している。すなわちclass II MHC拘束性T細胞(CD4<sup>+</sup>8<sup>-</sup>)の成熟には、胸腺間質のIa表現とTCRを介するシグナルの両者——おそらくTCRによる上皮のIa認識——が必須であり、class II MHC拘束性細胞の成熟には必須ではないことを示していると考えられる。この結果は、胸腺がT細胞レパートリー決定におよぼす影響は、class II拘束性に関するのみ絶対的であるという、従来

昭和61年度 日本女医学会会員学位取得者一覧表 (学術部) 62. 9. 26

Table with columns: 支部, 氏名, 出身校, 卒年, 論文名. Lists members and their research topics.

全国医科大学78校に調査依頼し59校より回答あり、結果213名の学位取得者中11名の既会員があり、会員外で住所判明の170名に入会のお誘いをし、7名の入会あり。

各部報告

- (1) 学術部 藤井常任理事 第一回ワークショップ開催について
(2) 事務部 白橋常任理事 女医の実態調査の集計結果を進めている
(3) 広報部 八木常任理事 会誌百十一号を七月末に発行予定
(4) 渉外部 特別に注意
(5) 総務部 大阪総会での反省
(6) その他 人事委員会について

短歌

ソレント国際女医学会議

世田谷支部 上山 ハマ

発表の声も時折とぎれ勝ち
演者は少しく風邪と覚ゆる
杖をつき国際会議に出席の
老いたる人よ国はいづこぞ

理事会議事録

- 日時 昭和62年6月27日
場所 日本女医学会会議室
出席者 (敬称略) 小俣、久保田、佐藤、明石、石原、藤井、丸山、三好、八木、石川、石津、稲生、鶴川、大原、小出、小暮、関口、野中、野本、野呂、藤田、添田、西山、山口、欠席者 (敬称略) 山崎、平瀬、井上、川口、南雲、二村、橋川、山本

第21回国際女医学会議予告

会期 昭和64年9月3日〜8日
場所 韓国・ソウル
テーマ 各国における女子の「がん」罹患について
治療面を含め、多くのの方々に関連を持つ領域です。今から準備をされ、多数の会員の方々の参加発表が望まれます。

- 部主催の西暦二〇〇〇年に向けて新国内行動計画推進全国会議に佐野常任理事出席
6月3日 日中医学交流会議に佐野常任理事出席
6月25日 女医の実態調査委員 会開催
(1) 国立婦人教育会館より昭和六十二年女性学講座の開催について
(2) 故垣石 和先生ご遺族、故田 辺かすみ先生ご遺族より香典の礼状あり
(3) 国立婦人教育会館より開館十周年記念論文の募集について
(4) 国立オリンピック記念青少年総合センターより施設利用案内あり

布する。  
(2) 日中医学協会より昭和六十二年  
年度年会費について  
例年どおり十万円支出。  
(3) 部会費支払について  
各部会へ二万円ずつ支出。  
(4) 職員夏期ボーナスの件  
例年どおり支給。

以上  
副会長(庶務担当) 久保田  
庶務部 野沢、明石、三好

常任理事会議事録

日時 昭和62年7月25日  
場所 日本女医会会議室  
出席者(敬称略)  
山崎、小俣、久保田、明石、石原、  
野沢、橋本、平瀬、福永、藤井、  
丸山、三好、八木  
欠席者(敬称略)  
佐藤、佐野、白橋

庶務報告 明石常任理事  
6月27日 理事会、人事委員会  
開催

7月13日 国連NGO国内婦人  
委員会に佐野常任理  
事出席

7月17日 国連NGO国内婦人  
委員会総会に佐野常  
任理事出席  
7月18日 第一回ワークシヨツ  
プ開催

その他  
(1) 厚生省へ昭和六十一年度会務  
報告および事業報告、会計監

査報告、定時総会議事録、昭  
和六十二年度事業計画案を提  
出する  
(2) 学位取得者および医師国家試  
験合格者を各大学へ依頼する  
(3) 総会欠席支部へ昭和六十年  
度会費納入に対し還付金を支給  
する

会計報告 福永常任理事  
六月分 別紙どおり報告

議事

一、支部助成について  
現在納入会費一件につき二百円の  
還付金を支給しているが、茨城支  
部より値上げしてほしいという意  
見あり次回理事会で検討する。  
二、人事委員会について  
職員の中小企業退職金共済制度加  
入について具体的に試算し、次回  
理事会で検討する。

三、ワークシヨツプ受講証について  
今後ともワークシヨツプおよび学術  
講演会参加者へ受講証を発行する。

四、東京で開催する総会について  
総会前日の観光、観劇、選挙結果  
発表までの待ち時間等について種  
種検討する。

五、国際女医会に  
国際女医会へワープロを寄付する  
提案あり、価額を調査のこと。  
東京都支部連合会の観劇会(歌舞  
伎座)について

日時 昭和62年9月23日(水)  
午前11時開演  
料金 一〇、〇〇〇円  
九代目坂東三津五郎襲名

会員動静

披露ほか、希望者は事務  
局へ注文願う。  
副会長(庶務担当) 久保田  
庶務部 明石、野沢、三好

評議員(敬称略)

秋田支部 金子ミサヲ  
大阪1支部 足立六花子  
予備評議員(敬称略)  
秋田支部 加藤 芳

大阪1支部 岩瀬帥子  
大阪2支部 川田喜代子  
大阪5支部 大形順子  
大阪8支部 橋 信子  
大阪9支部 綾仁伸子  
入会会員(敬称略)  
山形支部 斎藤俊子  
栃木支部 平尾淑子 本津美登利  
松田文子

千葉支部 青木いく子 関 央子  
大田支部 田中麻知子  
渋谷支部 馬場 成  
杉並支部 藤多恒子  
世田谷支部 中沢博江  
台東支部 佐藤サタ

豊島支部 中川美智子  
練馬支部 足立茂代子  
目黒支部 佐賀歌子  
神奈川支部 野田明子

山梨支部 内田成子 小野昌子  
内藤かね江 村田浪枝  
愛知支部 吉村陽子  
大阪1支部 杉浦静枝

大阪2支部 上田富美子  
大阪4支部 岩田以津子  
大阪6支部 岩田博美 前田芳子  
高橋レツ  
大阪7支部 中川満喜子  
井上希世子  
広島支部 西岡和枝  
佐賀支部 織田洋子  
新卒入会会員(敬称略)  
東女医内支部 大池靖子

集記



昭和六十二年九月二十二日、科学  
者でもあらせられる今上天皇には、  
「慢性すい炎の疑い」で、東大医学  
部・森岡恭彦教授執刀のもとに開腹  
手術をお受けになり、病変部組織の  
病理学的検査結果による病名も、「慢  
性すい炎」と発表された。その後  
のご経過もおよろしく、ご退院にな  
りご養生あそばしておいでになる。  
またお好きな大相撲をご観戦あそば  
される日の早からんことを、折念申  
し上げる。  
\*本会東京女子医大内支部の高橋  
通子(旧姓今井)さんは、ご自身隊  
長として隊員五人と報道隊員二人、  
計八人で、世界第六位の高峰である  
チヨ・オユーの登頂に成功された。  
\*支部だよりにより、山崎会長のご

高橋美也子  
物故者会員(敬称略)  
茨城支部 山縣さくら  
新宿支部 山川寿子  
台東支部 佐藤はつ  
都下東支部 中嶋ふさ  
愛知支部 田辺かすみ  
高知支部 恒石 和

病氣、手術を控えての公務に対する  
周到さを知った。手術後早くもワー  
クシヨツプに、理事会等々に出席さ  
れ、任務を遂行されている。  
(どうぞお疲れが生まれませんように)  
\*学術部のお骨折りのもとに、第一  
回ワークシヨツプでは、涼しく静か  
な講堂で、すでに自分の問題として  
捉えねばならない加齢・高齢にかか  
わる諸テーマのもとに勉強させてい  
ただいた。各演者の先生方から本誌  
用に抄録を載せさせていただいたが、  
向後も会員諸姉の直接のご聴講をお  
すすめする。(藤田)

昭和62年10月20日 印刷  
昭和62年10月25日 発行  
編集人 八 木 貞 子  
発行人 日 本 女 医 会  
発行所 東京都渋谷区渋谷2-1  
8-17 青山宮野ビル  
社団法人 日本女医会  
TEL(498)〇五七一  
TEL(498)〇五七一  
制作 東京都文京区水道1-  
5-16(815)六六六一  
株式会社 金剛出版